
○議長（渡辺文彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

◇ 小 林 克 己 君

○議長（渡辺文彦君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、小林克己君。

（3番 小林克己君 登壇）

○3番（小林克己君） 前回の一般質問において、テニスコートの利用方法について一般質問しました。利用方法が改善されました。誠にありがとうございます。

それでは壇上より一般質問をします。

1、地方経済の活性化について、一つ、当町独自で新たな経済支援策はあるのか。

二つ目、当町の内需面強化策としてのプレミアム商品券は経済活性化の効果があつた。コロナ禍後外貨を得るための準備として、Pay Payや、Suicaなどのキャッシュレスサービスを考えてはどうか。例えばバス導入は決定したが、タクシーに導入拡大の考えはあるかなどお伺いしたいと思っております。

二つ目観光について。

一つ、道の駅について整備改修に向けて、今後どのように取り組めますか。お伺いしたいと思っております。

二つ目、ワーケーション事業について、通信環境の整備や、余暇の充実だけでは駄目だと思われる。利用者が得た気づきや、アイデアを地域活性化にどう生かすかも合わせて考慮するワーケーション事業であるべきだと思われる。当町の関係人口を増やすワーケーション事業と観光への取り組みを伺いたいと思っております。

三つ目、松崎町景観計画について松崎中学校付近から松崎高校付近までの農村景観ゾーンで、耕作放棄地があります。花とロマンが広がる癒しの景観とは、程遠いと思われる。また阻害もしていると思われる。当町の考えを伺いたいと思います。

三つ目松崎の教育について。

一つ、中高一貫教育を行っている中で、松崎高校存続に向け、教育委員会ではどのような

ところに力点を置いているのかお伺いしたいと思います。

これにて壇上からの私の質問を終わります。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 小林議員の質問にお答えします。

一つ目の質問でございます。失礼、地方経済の活性化について、当町独自で新たな経済支援策があるのかというご質問でございます。お答えします。

静岡県の蔓延防止等重点措置や、その後の緊急事態宣言の発出に伴い、町内の飲食店や宿泊業を中心とした事業者の方々は、最大のかき入れ時である夏のシーズンに大変な打撃を受けたと伺っております。こうした状況を踏まえて、町では独自の経済支援策と、経済支援策として3回目となる事業所への支援金を今議会において、補正予算に計上させていただいておりますので、ご理解の程よろしく願いいたします。

大きな経済政策のうちの二つ目でございます。内需拡大策としてのプレミアム商品券は非常に良かったと。今後、外貨を得るために、キャッシュレスサービスを考えたかどうかというご質問でございます。

小林議員のおっしゃる通り、プレミアム商品券事業は非常に効果があり、町内の事業所へ大きな経済効果をもたらしたところでございます。ご提案のキャッシュレスサービスにつきましては、事業所ごとに経営方針が異なることや、この事業の損益への影響もあることから、事業所ごとに判断していただくものであり、町から指示すべきものではないと考えております。

大きな二つ目観光についてでございます。

そのうちの一つ、道の駅について整備改修に向けて、今後どのように取り組みますかというところでございます。お答えします。

先ほど鈴木議員のご質問にお答えしました通り、道の駅の整備改修につきましては、優先順位をつけ、地域や関係者の皆様との対話等を重ねながら、丁寧に進めてまいります。

観光についての二つ目でございます。ワーケーション事業について通信環境の整備や、余暇の充実だけでは駄目だと思う。当町の関係人口を増やすワーケーション事業と観光への取り組みを伺いたいということでございます。お答えします。

町が進めるワーケーション事業につきましては、コロナ禍において加速したテレワークの普及や新しい価値観による地方への関心の増加に対応し、松崎町における多様な時間の過ごし方を提供できることを目指してまいります。ワーケーションを推進することは、地方創生の

上からも重要で、町にとりましては関係人口を増やし、将来的な移住定住に繋げることはもとより、外部の人材を活用し地域課題の解決に取り込むことも可能であり、また、宿泊施設としましては、新規顧客の獲得にも繋がるものと考えております。町の恵まれた自然や温泉、宿泊施設を活用するとともに『交流拠点施設ふれあいと〜ふや』のワーキングスペースや、今年度ワーケーション施設として整備される民芸館などの仕事ができる環境を提供しながら、観光協会や振興公社とも連携しワーケーション事業を推進してまいりたいと考えております。

大きな二つ目、観光についてでございます。松崎町景観計画についてでございますが、松崎中学校付近から松崎高校付近まで農村系農村景観ゾーンになっておりますが、耕作放棄地があると。これは癒しの景観とは程遠いと思うが、いかがということでございます。

松崎町景観計画は、町内の土地利用や、現況の特性に合わせて、4つの景観ゾーンを基本方針としております。その中の一つである。農村景観ゾーンでは、中川地区や岩科地区の広がりのある農地と周辺の集落を含む区域とし、町ではこの計画に沿って、地域住民や事業者の皆様と一緒に背後の山や農地、河川集落などと調和するよう、癒しのある農村景観をこれからも守っていきたいと考えております。しかしながら、こうした農村景観像の中には、議員ご指摘の通り耕作放棄地があり、草等が伸びて景観を阻害しているところもあります。この耕作放棄地対策につきましては、藤井議員の質問でもお答えさせていただきました通り、町農業委員会から、土地所有者に対し農地を適切に保全していただくよう雑草除去の通知を出すなど対策を行っており、全て改善とはきませんが効果は上がっていると考えております。町では引き続き農業委員や、農地利用最適化推進委員など農業関係者と連携し農地保全を推進するとともに、より有効な耕作放棄地対策を考えてまいります。

次は、教育委員会の方のお話でございますので、教育長の方から、お答えさせていただきます。

(教育長 佐藤みつほ君 登壇)

○教育長（佐藤みつほ君） それでは引き続き小林議員さんの質問にお答えします。松崎の教育についてです。中高一貫教育を行っている中で、松崎高校存続に向け、教育委員会ではどのようなところに力点を置いていますかという質問でございます。お答えいたします。

松崎高校との中高一貫教育は、西豆の子供は西豆で育てるを合言葉に、松崎町、西伊豆町の教育長、松崎高校の校長と行政により、平成20年度から始まりました。松崎高校を核として生徒職員、地域、部活など様々な場面に広がり、実績を上げております。昨年は例年行っ

ている部活動の交流はコロナウイルスの関係もあり、あまり実施できませんでしたが、教職員の交流や、中高合同の美術展。静岡大学や静岡県立大学県内外の私立大学との連携の中で、中学生のうちから松崎高校を通しての進学を視野に入れ、静岡県立大学の教授による松崎の観光についての事業や、静岡大学の学生、松崎高校の生徒、松崎中学校の生徒による2030、10年後の松崎を考えるワークショップなどの事業が実施されております。また、松崎高校との交流や共同学習の機会を多く設定していくことを授業以外でも松崎高校生による進路講話、中高合同による挨拶運動、美術書道展や美術教室、美術鑑賞会ジオパーク学習会などを通して、松崎高校の生徒の良さや魅力を知り、松崎高校へ進学したいと思える生徒が増えるような取り組みを進めております。今後ともこれらの事業の継続、発展をサポートしていきたいと考えております。以上です。

○3番（小林克己君） 一問一答でお願いします。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○3番（小林克己君） それでは質問します。当町で独自で新たなこの経済政策っていう話ですけども、今回プレミアム商品券などをもう考えているっていう話を伺ってはいますけども、プレミアム商品券などで経済支援をされる考えはありますか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 新たな経済支援の中でプレミアム商品券事業というのがございますが、商工会の方からまた要望がございまして、プレミアム商品券を今回については年末商戦に向けて、やりたいという要望が来ておりまして、今回の補正予算の方にも計上させていただいてございます。

○3番（小林克己君） それではプレミアム商品券の内需拡大的なその経済政策として、プレミアム商品券の施策があるということを前提としてちょっと質問させていただきます。例えばこのプレミアム商品券のこのプレミアム分を、住民税・・・例えば非課税世帯とかには、プレミアム分を例えば無条件で配布していただいたり、もしくは高齢者福祉の充実の面から例えば当町では、要介護4以上で在宅で介護している家庭に対し、介護用品を例えば支給してはいますけども、ただこの支援事業には国が縮小や廃止などを検討されています。このような例えば福祉の充実の面からも、プレミア分のこういう世帯に対して支援したり、または、子育てをされている世帯とか生活困窮者みたいなところへ、先にプレミアム商品券のプレミアム分っていうのを支給するような考えとかはありますかでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 福祉的なところについては、私どもの方の関知はちょっとできませんので、プレミアムについてですけれども、一応商工会の方から要望がありまして、

商工業者の活性化と域内の経済活性化ということで、いただけてますもんですから、その部分については、うちの方はそういった形で公平に販売するという感じで今回は考えてございます。

○3番（小林克己君） 質問します。今回多分3,000冊ぐらいの販売という話を伺ってはいますけども、公平な販売方法をであると、どのようなまず販売方法で販売すると考えてますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 販売方法については、商工会にお任せしてございまして、商工会の方からいろいろ提案をいただけてますので、そちらで多分抽選・・応募者が多ければ抽選という形で同じような形になるかと思えます。

○3番（小林克己君） 質問します。それでは一応公平性が保たれているような販売方法であるという認識でよろしいでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 基本的には応募者が多い場合は抽選という形になりますので、一応公平にはなるかなというようなことになります。突き詰めると、1人いくらについていう話にもなってくるかと思うんですけど、そうしますとちょっと商工業ではなくなるもんですから、そちらについてはちょっとお答えしかねます。

○3番（小林克己君） それでは質問をします。ちょっと内部的なまた面でちょっとお話をさせてもらいます。町内では松崎町のロマンシール協同組合みたいなやつがあります。清水町では湧水ポイントなるものがあって、町の公共サービスの利用や、加盟店での買い物によって地域内通貨湧水ポイントを貯めて、また加盟店でのお買い物に利用することができるようなQRのコードによって、町を経済を活性化させようという考えで取り組まれていると思います。そこで、松崎町とこの松崎町ロマンシール協同組合等協力と協働っていうのですか、協力してQRコードによる地域内通貨への取り組みを検討してはいかがかと思うんですけども、そのような考えは、検討されるような考えはありますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） そういった提案もありまして、何名かの議員さんからの提案があったもんですから、商工会の方へと打診をしたり働きかけをしてはいますが、商工会の事業者の方でそれについては、ランニングコストとかいろんなものを考えた中で、今対応ができないというようなお答えをいただいている状況でございます。

○3番（小林克己君） 今のやつを要約すると、経費が掛かるから無理だということでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 事業者の方でその辺の損益分岐点なのか、掛かるランニング

コストなのか、その辺を含めた中で、今の事業の中での負担ですね。そういったものを踏まえた中でなかなか取り入れていただけてないというのが現状だと考えております。

○3番（小林克己君） わかりました。それでちょっと外貨的な外交的な方でちょっと経済の方で質問させていただきます。来年あたりぐらいから5G、携帯の5Gとか何かが本格的に多分、静岡の方でも進んでいくのではないかと自分は考えております。姉妹都市である帯広市、ここにある十勝バスでは路線バスだから、Pay Payで決済ができます。また、タクシーの配車アプリ、先月までは多分モブとかって言われてはいたでしょうけども、今月からGOタクシーだかというアプリになったと思われますけども、アプリ内で決済手段としてPay Payを選択すると、降車時に、自動的にアプリ内で決済が完了するため、財布からカードや現金を取り出したり、受け渡しをする手間や時間が省け、時間が不要になったりとかします。カード決済という考えではなく、このQRコードでの決済の検討をされていったらいいかと思われますけども、この辺の検討は今後されていくでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今公共交通の話かと思えますけれども、十勝バスとか後十勝の方のタクシーについてもMOVとか今GOタクシーの話ありましたけれども、そちらについても、基本的にはタクシー事業者、もしくはバス事業者の方が取り入れをしていただくような形になります。うちの方から指示するような問題ではないと、先ほど町長の答弁もありましたけれども、事業者の方でそういう要望があれば、そういったことを検討する必要があるかと思えますけれども、今の現状だとなかなかそこは難しいんじゃないかと思ってます。さっきのMOVとかGOタクシーの関係は十勝はMarSをやっております、そちらの関係の中で県というか、道の事業の中でもやっておりますので、今松崎町もピロティに自動運転の車両が先ほどあったのをちょっと見かけましたけども、少しずつそういった形での検討していく必要があるのかなと。考えてございます。

○3番（小林克己君） ありがとうございます。経済の質問に関してはこれにて終わらせていただきたいと思えます。

次観光について質問させていただきたいと思えます。前回の定例会で自分、また道の駅のことに関して質問させていただきましたけども、その際町長の方から「お金を使用していただけの施設直売所から計画したが、議会の反対により進んでいない」というような答弁をいただきました。このような町長の発言に対して、「買い物しない観光客やトイレだけの利用客は、遠慮してくれ」と差別的な発言と感じているとの声も聞きます。『魅力ある施設』および『魅力ある町づくり』によって、当町の交流人口を増やしていくかが重要ではないの

でしょうか。またこの差別的な意図を持って発言したのかっていうことも伺いたいんですけども。また、松崎の町はどのような人を誘客しようと考えているのか、それが観光への大きな柱になるのではないかと思いますので、どのような人をターゲットにしているのかということをお伺いしたいと思います。

○町長（長嶋精一君） お客様に対して、どのようなお客様をターゲットにしてっていう考えはございません。とにかくこの町を選んでいただくというような考えてございます。こういう人たちを来ていただきたいという考えはないということです。そして、私はその道の駅直売所を優先順位で作りたいと言ったことは・・トイレに来る人は避けるだとかね、全くそういうことはございません。トイレに来ていただいて、そして、直売所に寄ってみようかというお客様いるわけですので、そういうふうにお客さんは分けけてとか差別するような気持ちは全くございません。以上です。

○3番（小林克己君） それでは今この松崎町にどのような人たちが、観光に対して目を向けているのか、分析されているようでありましたらば、教えていただきたいと思います。

○企画観光課長（深澤準弥君） 松崎町を選んでくれる方は、リピーターがまつぎ荘の場合なんかも多いです。民宿旅館に確認しても、季節ごとにはリピーターの方が多く大体そうですね、半分前後・・年によって違いますけれども、半分ぐらいはリピーターの方が多いという形で伺ってます。新しい方については、やはり今の地方に目が向いている部分で、しかも今回コロナでいろんな状況もありましたけれども、まず最初に海外に行けなくなったときに、やはり日本国内の観光地が見直されたという時期が一瞬ではありましたけどもございました。そのときにやっぱり来てもらって・・来た方が「いいところです」と言う方が多かったのは事実でございます。今後やはりまだまだ知名度・・自分たちはこの近隣にいるので知名度高いと思ってるかもしれないんですが、やはり皆さんに伺うと、松崎町を知らなかったという声がございますので、そういった方々に松崎町の魅力をぜひ本当は発信して誘客に努めていきたいところでございますが、コロナの中でいろんな弊害がございますので、そういった形でアフターコロナを見据えながら、今観光関係者と共に、また先ほど申し上げました通り、賀茂地域もしくは伊豆半島、静岡県といったようなところと連携をしながら、誘客に努めてまいりたいと思っております。

○3番（小林克己君） 今回まつぎ荘って言葉が出ましたけども、まつぎ荘の改善策の・・改善計画の中に分析されてる中で、例えば1人旅で来客されている・・町に来るお客さんが最近多いと。そのような三浦の方の民宿とか何かに聞いても、問い合わせが割と1人

で泊まりたいっていうお客さんの問い合わせが割と多かったという話を聞きます。これももしかすると、今アニメとか何かポスターとか何かで西伊豆町、松崎町とかっていう形でアニメのポスターが貼られてることにより、こちらの方に・・伊豆の方に注目を浴びているのではないかと思われま。例えば道の駅今花時計のところ、花時計を全部撤去して、テントが張れるようなスペースを作る。このような何か新しく物を作るじゃなくて、あったものをただ撤去するだけです。そのような形で松崎の方に例えば来たいっていうお客さんが、そこでテントが張れれたりとかすれば、松崎に関係するこの関係人口とか交流人口増えていくのではないかと思われま。そのような道の駅を今止まってはいますけども、動かしていくような考えはありますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今のテントの関係とかキャンプっていうことでしょうかね。キャンプになりますと、民営の大会社がございますので、そういった方の圧迫っていうわけにはなかなかいかないと思いま。道の駅につきましては、先ほども申し上げました通り先送りという形でなるということですので、その中でいろんな議論をしながら、もう一度時代背景も大分変わってきておりますので、それを見越しながら進めてまいりたいと考えております。

○3番（小林克己君） 今テントと言いましたけども、自分が考えるには、あそこでは火を使うことが多分できないと思われま。普通のキャンプのところであれば火を使って、テント張ったりとか何かすることが出来ますでしょうかけども、あそこにキャンピングカーが来て、泊まったりとか何かされてる方たちもたくさん休憩されてる方たちもいま。その休憩のスペースの一つとして、芝生のような広場で火を使ってはいけないとかっていう条件のもと、道の駅として休憩できるようなテント張ってもいいですよ、そこで休憩してもいいですよってようなスペースを作ったらいかがでしょうかって形で話をされまましたけども、それも民間を圧迫するって言われたらそれまでですけども、そのような意図で発言させていただきます。

それでは、ワーケーション事業についてお伺いしていきたいと思いま。先月の8月の15日。までの3日間で伊東のリゾートのワーケーション施設で、起業家育成の体験イベントが開かれました。あそこで起業を目指す学生からすでに起業した事業者まで40人ぐらいが参加して、アイデアを形にするようなノウハウを学んだという新聞記事が載っていま。これによってワーケーションを考える人にとって、このような体験イベントは、スタートアップに良い環境を提供できるものではないかと自分は考えております。当町でもこのような体

験事業とワーケーションへの取り組みっていう考え方はありますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） ワーケーションについては国の方が進めておりまして、テレワークの推進っていうのはもう総理大臣が官房長官のときにテレワーク等を進める・・・ワーケーションを進めるといったようなことを申し出ておりまして、携帯の料金の値下げ等も含めた中で、進めていくような話をしていました。全国一律的に国の内閣府を初め、総務省がワーケーションの推進という形であそこに経産省も乗っかったり、農水省の方も違う形での関わりを持ったりして、国を挙げてワーケーション事業を推進していく形にはなっていますが、単純にやっぱり大規模な事業所ですね。いわゆる一流企業、大企業の方々のワーケーションの関係と、この間に南伊豆であったり、今度下田でもやっているものについては、大きい企業も含めながらですけど、フリーランスを対象にしたワーケーション事業という形になっております。伊東でやったのについても、あれについては関係の企業さんに声をかけていわゆるサテライトオフィスも含める中で、起業する方とかそういったことを募集して、ワークショップを推進した中でやったものになります。あれについては熱海とかでも先進的にもやっている事例がありまして、そういったところで、進めているのではないかと考えております。松崎町においてはやはりワーケーションの設備を今回Wi-Fiの設備等を整備させていただきました。その中でいかにそういった企業さんをお呼びできてもらえるかということについては、やはり結局はネットワークがなければ来れないということで、今いろんな形でそのネットワークを利用した中で松崎らしいワーケーション、もしくはサテライトオフィスをできないかと。先ほども町長の方で申し上げた通り、松崎において多様な時間の過ごし方という形でワークとバケーションに限らない、そういったこちらでの時間の過ごし方ができるような施策として、関係人口の増進に努めてまいりたいと考えてございます。

○3番（小林克己君） 今フリーランスを対象とした下田でも南伊豆でもそのような事業が行われているっていう話を伺いました。松崎町も、例えば西伊豆町も南伊豆のこちらの方は例えば、西側の方は電車が通っていなかったりとか、観光の提供できるものっていうのは、かなり似ている町ではないかと自分は思います。そこで松崎の町単独だけではなく、そういう近隣の町との連携をして、町単独ではなくそのようなワーケーション事業を取り組んでいくっていうような、考え方はありますでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 以前にもワーケーションの質問があったときに申し上げましたが、下田と賀茂郡でワーケーションの協議会みたいなのができておりましてその中で今進めておりますので、うち単独でやることと連携でやることと、分けて進めてまいるところ

でございます。

○3番（小林克己君） ワークーションから例えば定住希望者のためのセミナー開催事業や、複数の町で共同で実施する地域活性化のためのイベントや、シンポジウム広報活動などのこのような事業が・・もしも行うようなことがあれば、公益財団法人静岡県市町村振興協会からの事業の支援、地域づくり推進助成事業という形で、この助成をもらえる申請ができるのではないかと考えますけども、例えばその複数で考えていけたらなと思ったもので質問させていただきました。複数で、例えば隣の町とかで、協力するような考えはありますか。再度お願いします。

○企画観光課長（深澤準弥君） 先ほど申しあげました賀茂郡、下田の連携な事業につきましては、市町村振興協会ではないんですけれども、連携することによって2分の1の補助金が3分の2になるといったような活動の助成金をもらって活動していくような形でやっております。

○3番（小林克己君） ありがとうございます。それではちょっと景観計画の方に話を移させていただきます。この下田松崎線であったり、南伊豆松崎線のところでやっぱり耕作放棄地、今の話で伺いますと、雑草の草刈りなどをされているっていう話は伺いました。この松崎町景観計画の中では、例えばその連携レンゲやコスモスなどの景観作物の栽培を行っていき、その景観を保っていくみたいな話も多分・・この中に多分載っていたと思われま。草刈りだけではなく例えばそのように、コスモスなど耕作放棄地であるところに対しては行っていくべきではないか。この計画があるので。と思われまですけども、そのようなその景観作物に対しての説明をお願いしたいと思いま。

○産業建設課長（新田徳彦君） ただいまの耕作放棄地のところに景観作物をとというようなお話だったと思いまですけども、こちらにつきましてはですね、耕作放棄地は基本的に個人のものでございまるので、そういった方々のやっぱり協力っていうものを得なければならぬのかなと思いま。我々の方でも試験的にですね、産業建設課の方でコスモスを・・草刈ってコスモスを植えたりとかしていますので、上手くいけばですねそういったものを広く広げていくっていうのも手かなと思いま。いずれにしましても、町だけではできないことでもありますので、関係者のご協力が得られるようですね、そういうところも一つの案として考えていきたいと思いま。

○3番（小林克己君） 今の説明で行きますと、草刈りをお願いします。そして、それに合わせてそのときに一緒にコスモスなどのもしもまた草が伸びてくるようなことであるのであれ

ば、また草刈りをしなくちゃいけない1年もうちに何回も。それであるのであれば、景観作物のコスモスなどを植えたらどうですかっていうことをその時に同時に話を提供されるって形で、考え方でよろしいんでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 現状ですね、耕作放棄地になっているところにつきましては、先ほど話が出ておりますが、所有者に対しまして草刈りをしてくださいという写真を現況の写真をつけて通知をしております。今ご質問の方では、その後に景観作物をとということでございますけれども、あくまでもその個人の所有物、所有地でございますので、その辺につきましてもし理解が得られるのであればですね、そういった景観作物を植えるっていうのも一つの手かなとは思っておりますので、現状そこまでは雑草除去の通知をしてるときにですねそこまでお願いはしておりません。

○3番（小林克己君） 実際に1年間のうちに草刈を例えば、4月5月にやると、また6月7月に草刈りをしたくなる。雨が多いとまた草刈りをしたくなる。多分、年に2回3回多分草刈をお願いするようなことも多分もしかすると、生まれてくるのではないかと思いますけれども、それも全て草が生えたなと思う度に全部通知をされてるって形でよろしいでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 草刈除去の通知につきましては、基本的に近隣から苦情があるところをお手紙の方差し上げております。令和2年度におきましてはですね、全部で10回、筆数にしまして454筆対象者は97名。その前の年はですね、13回通知をしております筆数が258対象者が163名というような形を出しております。これらにつきましては、基本的にはそういった周りからの草を刈ってほしいというような要望があるところそういったところについてですね、農業委員会の方からお手紙を差し上げているというような形でございます。

○3番（小林克己君） ありがとうございます。こまめに連絡を取られているということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは松崎の教育について質問させていただきます。これはちょっと町長にお伺ひしたいんですけども、よろしいでしょうか。定員割れが続いている松崎高校ですが、もし、地元で高校がなくなったとしたら、子育ての若者の人数が、激減するのではないかと自分は考えております。また、松崎高校。この高校が正直言うと当町には必要であるとも思っております。このような松崎高校の大事さっていうことを県の方へ・・・例えば町長が訴えていって、この松崎高校を残していくっていうような、考えで県の方に話しかけていくっていう考えはありますでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 突然の質問なんですけれども、当然松崎高校は、松崎町にとって必要であります。西伊豆町にとっても必要であります。従いまして、そのような機運が高まったときには、積極果敢に県に・・・県知事の方に申し出ていきたいとこのように考えております。私は以上です。

○3番（小林克己君） ぜひ県の方に地元の子の高校の大切さを訴えていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。今松崎の教育って言いますか全体ですけども、やはりGIGAスクールであったり、新学習指導横によって、持続可能な開発のための教育と言われてるESDであったり、いろいろ多分学校の先生たちが、多分大変な時期ではないかと自分は正直言って考えます。実際に学校応援隊っていう形で、18名ぐらいの人達が多分応援されているとは思いますが、実際にこれだけいろんなことが変わっていく教育環境の中で、やはりそれで学校の現場ですか、先生たちの方は、十分先生たちの人数っていうか足りてるのかっていうことがちょっと心配するところがあるんですけども、いろんなことがちょっとたくさん増えてるもので。その辺はだからどうでしょうかっていうとお伺いしたいと思えます。

○教育長（佐藤みつほ君） 小林議員いつも教育の方ありがとうございます。その松崎の幼・小・中・高縦割りというんですかね。それをもとにしながら、松崎ではとにかく子供たちを、いろいろな場で活躍させていただいているということに本当に感謝申し上げる次第であります。4つの視点に基づいても、コロナ対応にしましても、GIGAスクールに対しましても、防災教育に対しましても、2030学習会のこの4つの視点に対しましても、必ずそこに大人、行政、地域の方々、議員の方々、区長さん方、地域の方がそれぞれが皆いろいろな役目をしてくださるっていうことがとても大きいので、町の教職員一同集まったときにも、そこに感謝の気持ちはもちろん持ちながら、たくさんの子供たちがやっぱりいろいろな問題を・・・松崎は小さいからとか、松崎は教育が安定してるからなっていうことも時々耳にしますけれども、いろいろな子供たちがいろいろな形で悩んだり苦しんだり悲しんだりしています。そういう子供たちをどのようにして、手を差し伸べるかということが問題になってきます。そうしたときに、やはり予算の方でも支援員の方々のこと、それから必ずその講話をしてくださる方とか、応援隊とか夏には寺子屋の学習会を行いましたけれども、そのときには必ず退職した先生方とかあるいは周りの方々が応援に来てくれます。ですから、そういう形の中ですごい支援が大きいことと、連携がなされているということに感謝申し上げて、このまんま持続していった新しいものをももちろん取り入れながら連携しながら、それから笛木の

部分を大切にしながら、進めていきたいといつも考えております。以上です。

○3番（小林克己君） 5分の延長すいません、お願いいたします。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○3番（小林克己君） 今教育長の方からお話をいただきまして、例えば言葉ではちょっと出てこなかったんですけども、教育長の言葉から。例えば不登校の生徒や、別室登校の生徒への対応もちゃんとしっかりなされてるってか・・・でよろしいんですね。

○教育長（佐藤みつほ君） そのことはやはりとても大切なことです。不登校の子供たち、それからいじめにあっているなどと思われる子供たち、それから心で大変悩んでいる子供たち、そここのところにやはりしっかりと見届けとか、様子の把握、それによってずいぶん様子が変わってくるわけです。それで、教育委員会を中心に掲げた『子供を知る会』っていうのが1カ月に1回ありますけれども、アドバイザーの人たち、それからスクールカウンセラーの方々、ソーシャルワーカーの方々、それから養護教諭の方々、教育委員会、それから福祉の方から福祉行政の方から、いろいろな形でたくさんの方々が参加しながら、とにかく見失わないようにということで、意見交換もして幼稚園、小学校、中学校、時には高校の先生も来てくださったりしながら、会合を開いているような状態状況があります。

○3番（小林克己君） ありがとうございます。大変子供たちに対して手厚く、いろんな方面から、子供たちのケアがされてるってことが理解されました。今後とも新しく例えばGIGAスクールであったり、いろんな教育環境が変わっていく、今までは多分変わっていくような時代になったり行くとは思われますけども、ぜひそのような皆さんの温かい目で『西豆の子は西豆で育てる』っていう気持ちで我々議員たちも、協力していきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

これにて自分の一般質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。
た。

○議長（渡辺文彦君） 以上で小林克己君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午後 1時53分）